

学 年	科目名	教科書名	副教材名
高3 (特進)	日本史 特講	詳説日本史 (山川出版社)	詳説日本史図録 (山川出版社)

1. 授業のねらい

- ① 日本の歴史の展開を総合的に考察し、歴史的思考力を培い、国際社会を主体的に生きる国際人としての資質を養う。
- ② 歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付ける。
- ③ 史料・資料の読解力を養う。
- ④ 大学入試問題に対応できる基礎力を身に付ける。

2. 授業のすすめ方

- ① 穴埋めノートを配布し、インタラクティブボードを使って主として講義形式で行います。授業中の重要事項は必ず書き留めるようにしてください。配付されたプリントはなくさないようにしてください。
- ② ノートの穴埋めよりも講義の方が重要です。聞き漏らすことのないよう緊張感を持って授業に臨んでください。

3. 学習上の留意点

- ① 歴史は科学です。原因・過程・結果の積み重ねが、教科書にまとめられています。人物名・事件名・年号などを暗記することも大切ですが、歴史事象の背景を理解することによって、歴史的思考力を養うことができます。授業ではそのことを意識して臨んでください。
- ② 歴史（過去）を学ぶことによって、現在の問題（課題）を考え、未来（解答）を導き出す学問です。常に「なぜ」の問いかけを持つようにしてください。
- ③ 教科書をよく読んで、歴史の流れをつかむようにこころがけてください。
- ④ 歴史書（教科書）は様々な資料・史料をもとにして、書き上げられています。歴史を理解するためには史料の読解は欠くことができません。授業中には適宜、史料集を用いて、史料の読解力を身に付けることをめざします。
- ⑤ 山川出版社の『詳説日本史』は多くの高校で使用され、大学入試問題作成者も参考にしています。大学入試問題はこの教科書から出題されるといっても過言ではありません。教科書の本文だけでなく、脚注・地図・図版・史料・写真などにも目を通しておくことが大切です。

4. 副教材・参考文献

- ① 『詳説日本史図録』（山川出版社）は、授業には必ず用意しておいてください。
- ② 授業の理解を高めるため、『日本史用語集』（山川出版社）の購入を推奨します。受験生の必需品です。知識の確認用に『山川 一問一答日本史』（山川出版社）も推奨します。

5. 評価の視点・テスト・課題等

- ① 定期考査3回（100点×3）・平常点（1学期20点+2学期10点）
- ② 平常点は授業中の態度・課題の提出状況を中心につけます。積極的に授業に参加する姿勢、発問に対する回答状況等を評価します。
- ③ 定期考査、平常点等に基づいて「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について学年末に評価します。

6. 定期考査

定期考査は授業内容から主に出題します。毎回の授業に集中し、教科書をしっかり読んでください。

7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標						
一 学 期	四 月	第10章 幕藩体制の動揺	中間 考 査 授 業 姿 勢 期 末 考 査	1 幕政の改革, 欧米諸国のアジアへの進出に着目して幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成を理解する。						
		2 宝暦・天明期の文化								
	五 月	3 幕府の衰退と近代への道			2 開国・明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの過程を理解する。					
		4 化政文化								
	六 月	第11章 近世から近代へ				3 立憲国家の展開を理解する。				
		1 開国と幕末の動乱								
	七 月	2 幕府の滅亡と新政府の発足					4 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響を理解する。			
		第12章 近代国家の成立								
	七 月	1 明治維新と富国強兵						5 近代産業の発展と近代文化の特色を理解する。		
		2 立憲国家の成立								
二 学 期	九 月	第13章 近代国家の展開	(基礎学力到達度テスト) 授 業 姿 勢 期 末 考 査	6 政党の役割と政治や社会運動の動向および文化の特色を理解する。						
		1 日清・日露戦争と国際関係								
	十 月	2 第一次世界大戦と日本			7 対外政策の推移と戦時体制の強化など第二次世界大戦と日本のかかわりを理解する。					
		3 ワシントン体制								
	十 一 月	第14章 近代産業と生活				8 第二次大戦後の日本の復興と経済成長について理解する。				
		1 近代産業の発展								
	十 二 月	2 近代文化の発達					9 現代社会の形成過程を理解し, 諸問題について考察する。			
		3 市民生活の変容と大衆文化								
	三 学 期	一 月						第15章 恐慌と第二次世界大戦		
								1 恐慌の時代		
二 月		2 軍部の台頭								
		3 第二次世界大戦								
三 月		第16章 占領下の日本								
		1 占領と改革								
三 月		2 冷戦の開始と講和								
		第17章 高度成長の時代								
三 月		1 55年体制								
		2 経済復興から高度成長へ								
三 月	第18章 激動する世界と日本									
	1 経済大国への道									
三 月	2 冷戦の終結と日本社会の変容									

※シラバスの内容(時間や事項)については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。